

【熊夜叉女請文】

う(請)け申して(マ)い候(地)ちの事

合一(所)そ口(東)とう(西)さい二ち(丈)やう五し(尺)やく、

を(奥)く(南)なんほ(北)く廿一ちやう二しやく

た(但)ゝし口より十ちやうより

ハ口四ちやう五しやく五す(寸)ん、

をくゑ十一ちやう二しやくにて候、

右ちの五て(条)うに(西)しの(洞)とうい(院)ん、にし

のとういんよりハに(西)しみ(南)なミの(頬)つら

にて候、まいね(毎)んち(年)し三貫五百文、け(懈怠)たいなく

さ(沙汰)たし申し候へく候、なん(何)時にても

候へ、御(用)ようの時ハ、い(急)そきあけて

か(返)へし申し候へく候、よて(後)のち

のため、う(請)けふミ(文)の状(如脱力)件、

ふ(文和)んな二ね(年)ん二月廿一日

う(又)けぬし(熊)くま(夜)やし(又)や女(略押)(略押)

うけにんめうゑん(花押)(花押)